自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171000359		
法人名	有限会社 敬愛サービス		
事業所名	グループホーム ななかまど大麻		
所在地	江別市大麻元町192番地28		
自己評価作成日	平成26年1月20日	評価結果市町村受理日	平成26年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所の「あくまでも人間らしく」の理念のもと、地域の中で入居者一人一人が1日1日を大切に生活し、施設の中で閉じこもっているのではなく、マイクロバスで出かける機会を多く持ち、社会との関係を維持し、充実した日常生活を営んでいただけるよう、職員が地域と協力してケアさせていただいております。また、家事や畑仕事は入居者の皆様と一緒に、今ある機能を萎えさせない様にしております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0171000359-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成26年2月12日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者が、医療・福祉の実務経験から「人としてのあたりまえの暮らしとは何か」を考える中で、最後まで人間らしく過ごせる支援をしたいという思いで開設し、12年になる事業所である。閑静な住宅街にあるが小学校や公園、消防署が近隣にあり、災害時には消防署で一待機できる環境にある。事業所は、1ユニットならではの利点を活かし、利用者と職員全体が家族的な関係を築いており、家族からの信頼も得ている。「あくまでも人間らしく、あたりまえの生活」を支援するために、管理者は職員の育成に力を注ぎ、様々な研修への参加、資格取得のための支援とともに日々のケアの中でスキルアップできる体制も整えている。可能ながざり利用者全員で出かける機会を多くし、日々変化のある暮らしを考え社会との繋がりを大切にした支援に取り組んでいる。協力医療機関との医療連携体制も構築し、訪問診療、訪問看護とともに往診も日常的に受けられる体制である。これは利用者・家族にとって心強いものとなっている。また、自然災害や大規模停電など様々な災害を考慮した備蓄、防災器具、非常用発電機などを備え利用者が安心して生活できる支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は職員会議及び日常生活の中で理念に基づく運営方針を具体化し、日常的に職員に話している。また、申し送りで確認している。	日々のケアに活かすために職員全体で理念の見直しを図り、新たな理念を作りあげ統一した認識で実践に繋げている。職員会議や申し送り時に理念を具体化し、全職員で共有しながらケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と、買い物・散歩・ゴミ捨てなどに行った時など、近隣の方と挨拶をしたり、積極的に声をかけている。また、夏祭り等の催しも案内し近隣との交流もある。 地域の行事は積極的に参加している。	地域住民とは、散歩や買い物の時に挨拶を交わし、町内会行事のバーベキューや温泉に利用者と共に参加している。また事業所祭りに地域住民が参加したり、町内会の会報で事業所が紹介されたりするなど、地域との交流が進みつつある。近隣の子どもが来訪することもある。更に専門職としての事業所の機能を活かし、地域に向けて認知症の理解に関する啓発活動や介護に関する様々な相談の受け入れを積極的に行っており、日常的に相互交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の研修の場として施設を利用して頂いたり、民生委員の会合に参加して認知症高齢者の理解を深めてもらう様努めている。 地域住民に対して年に1度認知症高齢者の講演会を開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、運営推進会議を行い、話し合いをし、意見やサービス向上に活かしている。 運営推進会議にて、施設長、ホーム長よりホームの様子やどんな行事に参加したかなどの報告をしている。	利用者、家族、町内会長、地域包括支援センター職員、消防署員と共に2ヶ月ごとに会議を開催している。事業所の運営状況、利用者の暮らしぶりや行事などについて説明し、話し合いを行い運営に活かすよう取り組んでいる。議事録も作成している。	日々の状況を説明し理解を得ているが、今後は参加できない家族の状況も勘案し、議事録を家族に提示しながらより一層、多様な意見の活性化を図られるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役所に書類など提出する際には担当者顔と顔を合わせ、近況など話す機会を設けている。	市の担当者とは、定期的な書類提出時に事業所の近況を報告し、利用者の対応等について話し合っている。運営推進会議に参加する地域包括支援センター職員と話し合い情報交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を定期的実施し、各職員に伝達。「身体拘束はしない」というのが、全職員の共通した考えであり、実施している。玄関に施錠をしないでセンサーを設置している。入居者の動き、言動の把握により、鍵の掛かっている玄関ドアより不意に外出しないよう注意している。また、外部の人が無断で入ってきてはすぐに気づけるように注意している。	職員は身体拘束や虐待に関する研修を順次受講し、職員会議や勉強会で共有を図り身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日々のケアの中で言葉遣いや不適切と思われる行為の時は都度、職員同士で話し合い適切なケアに心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に1度の職員会議や勉強会、また、ニュースなどで虐待がとりあげられている時など、話し合いをし、未然に防いでいる。また、職員は虐待についてのレポートも書いている。 虐待についての研修会にも参加している。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月に一度職員の勉強会で制度について学ぶ機会をもっているが、活用までにはいたっていない。対象者が出てきた場合には直ぐに対応できるように繰り返し学んでいきたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族とは連絡を密にし、入居者とも話し合いをし納得して頂けるよう努力している。これからも継続して家族と連絡を密にし、契約や解約に関する説明を十分に説明し、納得してもらえる様にする。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設長やホーム長が、利用者と会話をしたり職員に様子を聞くことで、意見など話しやすい状況を作っている。その時その時に電話や郵送、ハガキを使用して御家族様にご連絡している。	日常的な来訪や事業所の行事、イベントなどに多くの家族が参加しており、様々な機会をとらえて家族の希望や意見を聞いている。また介護計画変更表を送付する際、家族のコメント欄を設けその意見を活かすよう取り組んでいる。遠方の家族には、メールや電話で状況を報告し希望を聞いている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	家族の方が訪問された際など、意見や苦情を話しやすい環境になっている。また、家族会を開き、発言できる場を設けている。苦情などが出た場合には、その都度話し合いをし、速やかに改善していくよう努めている。御家族様が訪問された際や3ヶ月毎の計画書の送付によって、本人の現在の状況が分かり、意見や要望を言いやすい様に心掛けている。	職員は月1回の職員会議の中で気軽に意見交換をしている。また必要に応じて個別に話し合う機会を設けている。事業所は人事考課を行い職員の意欲向上に繋げるとともに資格取得のための勉強会を開き、柔軟な勤務体制を組むなど、働きやすい環境を整備し職員のスキルアップに繋げている。職員が自由に意見を言いやすい雰囲気があり、管理者はアイデア、提案を運営に反映するよう取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修や勉強会、資格取得などを行い、職員の向上心への働きかけ、それを維持していけるよう努めている。 労働しやすいように、屋外に喫煙所を設け職場環境を整え、介護手当という名称で頑張りに応じた手当を支給している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部の研修では、介護福祉士の勉強会などを行っている。外部の研修では防火管理者研修や、職員の段階に応じてリーダー研修などに参加し、トレーニングを進めている。今年度は実践者研修、管理者研修、高齢者虐待についての研修等に参加している。また、研修に行った職員が勉強会を開き、得た成果を他の職員と共有しケアの質の向上に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム代表者の集いを開き、地域の同業者と交流する機会を持っており、相互の訪問も行い情報交換をしている。また、毎年市内のグループホーム交流会を開催しており、その際の会議においても職員同士が交流する機会となっている。毎年ホームで開く夏祭りに来て頂いたり、相手方のホームの祭りに参加し、交流を図っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	運営者や職員が直接本人と話をし、何を知りたいか、どのようなことで困っているのかを把握し、受け止めるよう努めている。御入居者様と世間話をしたり、昔話を良く聴いたりしてコミュニケーションをとり、信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	運営者や職員が直接家族と話をし、何を知りたいか、どのようなことで困っているのか、今後どうしていきたいのかを把握し、受け止めるよう努めている。御家族とコミュニケーションをとり、信頼関係を築き、悩みを相談しやすい雰囲気を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームからも積極的に話しかけ、入所者の生活の様子を伝え、家族からの相談や要望も聞くように配慮している。御家族様や職員と相談し、本人にとってすぐにも必要なケアは何なのか見極められる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に利用者との会話を多く持ち、話を聞くことに重点を置き、利用者一人ひとりに合わせた雰囲気ですべて接している。日常生活においても、調理時や食器洗いの時などの、汚れの落とし方、昔ながらの方法をおしえていただくなど、自然に支えあう関係が出来ている。調理・片付け・掃除・買い物等、利用者や職員で作業している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	陶芸・イチゴ狩り・夏祭りのお手伝い等、多数の行事においてお互いの喜び楽しみを共有している。面会は常に歓迎している。遠方でそれが叶わない場合は、電話や手紙での交流も積極的に行なっている。各種案内や連絡を取り続け、支援の輪を増やしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームはマイクロバスを持っていて、入居者の外出の希望を叶えている。また、馴染みの方がいつでも気軽に訪れるよう配慮している。	事業所では、利用者の希望に応え思い出の場所へ出かけたり、利用者が家族と共に墓参りや懐かしい場所に出かけたりするなど、これまでの繋がりを大切にしたい支援を心掛けている。友人も高齢化し来訪は少なくなってきたが、買い物時に友人と会い会話をすることもある。訪問理・美容師とは馴染みの関係になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の関係を把握するよう努めている。共同空間中に利用者同士が自由に過ごせるような居場所を確保している。常に職員は、利用者の中に入り関わりを支えるよう努めている。散歩や外出等において、さりげなく利用者同士で手を繋いだり、声を掛け合える雰囲気作りをしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム側はいつでも相談を受け入れる体制にある。また、ななかまど祭りの案内を送付する等、継続的な関わりを持っている。いつでも気軽に尋ねられるよう配慮もしている。現在入所している方の御家族だけでなく、退所した方々の御家族との関わりを持っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	人間としての生活が保てるよう入居者一人ひとりの尊厳を尊重し、自分のペースで生活していただいている。職員は一人ひとりの希望や自己決定など本人の意向にそうよう、又本人の思いに近づけるような援助に努めている。一人一人に合った言葉掛けをし、利用者の訴えに気付き、希望を言いやすい雰囲気作りをしている。	これまでの生活歴を念頭に置きながら、日々の関わりの中で利用者の訴えや行動から思いをくみ取り、気づきを大切に支援している。言葉の理解が困難でも筆談で分かる利用者もおり、様々な工夫を重ねながら思いを受け止めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室には使いなれた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ安心して過ごせる場になっている。又、生活歴から本人の得意な事を把握し、活躍の場を広げている。センター方式を用いて、本人を理解するツールとして活用している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日を通して利用者一人ひとりをよく観察し、申し送りやケース記録を用い状況を把握している。また、各職員が情報を共有している。一人一人一日の過ごし方や心身状態が違っているので把握している職員から情報を聞き、共有した事を忘れないように記録として残している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者主体の介護計画をセンター方式により、全職員の出席する職員会議にて意見、アイデアを取り入れ作成している。原案は家族に送付し確認していただいている。また、入居者の居室にも掲示しており必要な場合は話し合いの場をもつ。職員会議にて意見を取り入れながら3ヵ月ごとの見直し・作成を行い、見直し以前に変化があった場合は新たな計画を作成し、家族にも確認していただいている。	3ヶ月ごとの見直しを基本にして、変化時には都度見直し新たな介護計画を作成している。家族の希望を含め毎月職員会議で課題状況を検討し、家族のコメント欄を設けた介護計画書原案を家族に提示し、家族の意見、本人の思い、職員のアイデアを盛り込み現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人ひとり個別記録をしている。ニーズに対してのサービス内容を細かくし数字(サービス内容)に置き換えることで、より細かな援助内容を個別に記録する工夫ができています。その他、気づきや工夫がある場合は個別記録に記入し、その他に朝夕2回の申し送りで情報交換を行なっている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じて柔軟な対応を行なっている(外泊が困難な利用者には家族に泊まりに来てもらうなど)。グループホームとしての特性を活かし、本人や御家族の要望に応えられるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの消防署に届けを提出し、年に何度か防災訓練を行っている。また、救急救命講座会や防火管理者講習にも参加している。近隣の中学生や高校生・専門学校・大学生などボランティアも受け入れている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を実施しているかかりつけ病院(野幌病院)を確保しており、院内に気軽に相談できる相談員がいる。また、看護師資格を持つ職員を配置しており、日常的に利用者の健康管理を支援している。分からない事があればすぐにかかりつけ医に連絡している。	協力医療機関との医療連携体制が整備され、月2回の訪問診療、訪問看護が行われている。その機会に受診する利用者が多い。変化時には即医師との相談が可能で往診も得られ、適切な医療が受けられる体制は、本人・家族の安心に繋がっている。他科受診の場合は家族対応が主となるが医師への情報提供を行い、受診結果も得ている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を受けており、利用者の健康管理をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院と連絡を密にし、家族とも連絡を取りながら話し合っている。また、リハビリ等グループホーム内で行える場合は、病院関係者との情報交換を蜜にして早期退院できるよう努めている。職員も小まめにお見舞いに行き、状態を見に行く。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状況の異変・重度化した場合は医師・家族と共に話し合いをしている。また、その情報・方針をケース記録への記載や、申し送りを通して職員全員が共有している。また、運営推進会議等でターミナルケアについて家族と話し合う機会を設けている。御家族様に御本人の最後についての話をっており、相談を受けられる様になっている。かかりつけ医の指導を受けながら出来ることを支援している。	重度化や終末期に向けた指針とともにターミナルケアの具体的な対応マニュアルを作成し、家族に提示し意向を聞いている。重度化に伴い医師・家族と段階的な話し合いを持ち、その情報や方針を記録し全職員で共有してケアに当たっている。事業所は、昨年看取りをしており、本人・家族の思いを確認しながら希望に沿えるよう進めたい意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防の救命救急講習会を受講している。また、訪問診療実施の掛かりつけ医を確保している。看護資格を持った職員が在籍している。救急救命の資格を持っている職員の指導により職員全員がAEDの使用方法を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員の立会いの下、春・秋(日中・夜間)の防災訓練を行っている。また、地域の行事にも積極的に参加し、日頃から協力をお願いしている。災害があった時を考え、非常食を常に完備している。	消防署員の協力の下、年2回昼夜に避難訓練をしている。状況に応じた変化も考慮し夜間の訓練も行い実際の動きを検証した取り組みをしている。屋外サイレンやAEDの設置、非常用発電機を備えている。飲料、非常食、防寒用具も完備し、町内会長を通して地域住民の協力も進めつつある。利用者一人ひとりの防災頭巾を備えるとともに日常的な外出を訓練の一環として利用者の動きを確認している。	災害時に必要な様々な工夫がとられている。今後も予期せぬ災害を考慮し、様々な場面想定や多くの地域住民を含めた訓練増も検討しながら、より一層職員、利用者のスムーズな行動につなげることも期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者は「お客様」であり、介助しているのではなく、介助させて頂いているという意識を持ち、接している。また、個別化や受容という基本的で大切なことを忘れず援助している。個人情報に関しては職員全員が誓約書を書き、厳重に取り扱うよう徹底している。	一人ひとりのプライドに配慮しながら、その人に合った居心地の良い言葉かけをしている。本人のこれまでの生活習慣を損ねない関わりに努め、安心できるよう取り組んでいる。職員はプライバシーについて理解しケアに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の自己決定を重視し、本人の分かりやすい説明・コミュニケーションをとりながら、時間がかかっても可能な限り自分で選択して頂いている。外出時、食べたい物を一人一人に聴いたり、お誕生日に欲しい物をプレゼントする。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各入居者の生活歴や得意なことを把握し、自分のペースで希望に沿った生活が出来るよう支援している。介護者の価値観を押し付ける事無く、御入居者の長年築き上げた生活歴を理解しようと努力し、その人らしい生活が送れるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や機能性に配慮しつつ、本人の意思・個性を尊重したおしゃれが出来るように支援している。理美容は2ヶ月に1回訪問理美容を利用し、利用者さんにもご満足して頂いている。御入居者様、御家族様のご希望を聞き、パーマをかける、髪を染める、おしゃれ染めをするなどしています。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりの残存機能を活かして、調理や盛り付け、配・下膳など、出来ることを職員と一緒にやっている。また、好き嫌いのある利用者さんには栄養バランスにも配慮しながら個別のメニューを提供している。	利用者の好みや希望を取り入れ、個々の健康状態と栄養バランスを考えた献立を職員が立てている。食事の準備から配膳・下膳など利用者が当たり前に行っている。誕生会や四季折々の行事にはレストランで食事をしたり、チラシをみてランチに出かけるなど楽しみながら食事できるよう取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日誌に、1日の食事量、水分摂取量を一目で解る様記載している。刻み食やゼリー食等、個別に食べやすい工夫している。又、管理栄養士の指導の元にメニューを決めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回、歯磨きや舌磨き、歯間ブラシを行っている。その際全てを介助者が行なうのではなく、本人の出来ない部分を介助している。口腔内の観察を行い、異常があった場合は歯科受診している。入れ歯は夕食後にお預かりして、入れ歯洗浄剤につけています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各入居者の排泄パターンは概ね把握しており、時間毎など必要に応じて声掛け・誘導を行っている。その際、自尊心を傷つけないよう一人ひとりに合わせた配慮をしている。職員同士排泄の確認し合い、体調の悪い時など申し送りにて小まめにトイレ誘導を行い、排泄介助をしている。	一人ひとりの状況に合わせた衛生用品を使用しているが自立排泄の利用者が多い。また個々の排泄状況を把握し、さりげない声掛け誘導でトイレでの排泄を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日誌に排便状況、1日の水分摂取量を一目で解る様に記載している。水分を取りやすくする為、ゼリー食等、本人が無理なく摂取できるよう工夫している。体操や外出を日常的に取り入れ、身体を動かす機会を多くしている。日頃から管理栄養士から、食事の工夫について指導を受けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	特定の入浴日を設けていない。毎日入浴できるよう準備しており、希望や状態に応じて入浴して頂けるようにしている。一人一人によってゆっくりと湯船に浸かって頂く。(話をしながら)	日中の時間帯で希望に沿って毎日入浴できる体制である。基本的には週2回以上を目安に入浴を勧め清潔の保持に努めている。入浴を拒まれる利用者には日を改めたり、言葉かけを工夫し促したりして入浴に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に散歩や手伝い、体操などをして運動不足を解消し、夜間安眠できるように支援している。不安や混乱がある時には安心や落ち着きが得られるように対応し、疲労時には居室にて気分転換や休憩が出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院からもらった薬剤情報提供書をファイルにまとめ、各個人のケース記録にもまとめ解りやすくしている。薬剤の追加や変更があった場合も同様にケース記録、申し送りに記載して情報を共有している。薬は各個人にその都度手渡し、その場で飲んでもらい、誤飲や飲み忘れをしないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが家事の分担や庭の野菜作り及び収穫など、お手伝いや得意なこと、楽しめることを行い、充実した日常生活が送れるように支援している。外出が好きな方には、一緒に買い物に出掛け、気分転換しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩など積極的に行なっている。外食や行事を大いに取り入れ、入居者の楽しみの一つとなっている。天気のいい日には散歩に出掛けたり、夜間のイルミネーション見物や初詣に出掛け、楽しみながら生活出来るように努めています。	日常的な散歩や買い物のほか海水浴、初詣、雪まつり、イルミネーション見学など全員で出かける機会を多く取り入れ変化のある暮らしを支援している。利用者も外出を楽しみにしており、希望する時にいつでも出かけられる体制を整えている。また夏場には菜園で野菜を育てたり収穫を楽しんだりするなど、戸外で過ごす機会を多く設けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な入居者に関しては見守りにて買い物をして頂き、不可能な入居者に関してはホームとして預かり支援している。神社へ行き、御入居者様のお金でお賽銭を入れ、お願いごとを言っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話は、その時の本人の状態を見極め本人と代わりお話ししていただいている。こちらから掛ける場合も同様である。また、年賀状を書いて送っている。母の日などに贈り物が届いた際には、本人と一緒にお礼の電話をかける等している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃（職員・利用者）を行い、汚染時には職員が素早く対応し、不快無く過ごせるように努めている。テレビは適切な音量にしている。日差しの強い日はレースのカーテンを使用。エアコンや窓の開閉、換気扇などで空調を管理している。季節ごとに花などの飾りを変えている。季節によって飾り付けを皆さんで行っています。	既存の建物を利用しているが、台所と対面式に居間兼食卓スペースが設けられ小上がりが連なる造りで適度な共有空間となっている。日中過ごすことが多い居間兼食卓スペースは不快な音や臭いもなく、湿・温度を整え居心地良く過ごせる場所となっている。1階、2階の廊下にはベンチを置き思い思いの場所で過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の状況に応じた座席配置になっている。居間には畳みの小上がり、廊下・2階ホールには畳みの長いす、ベンチを置き、利用者が自由に使用出来るようにしている。それぞれの性格や対人関係を考慮し、現在の座席配置が悪ければ席を変えるなどの柔軟な対応をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具や本人の使いやすい家具を使用し、利用者が自室で穏やかに過ごせるようにしている。	個々の居室内は様々な造りであるが、全体的に広いスペースが確保され、本人の使い慣れた思い出深い家具や調度品、仏壇などが置かれこれまでの生活習慣を大切にされた居室となっている。壁には職員の寄せ書きを添えた入居当初からの本人の写真が飾られ、安心して過ごせる工夫が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、廊下や玄関など要所に手すりを設置している。また、常夜灯・フットライト・センサーライトを要所に設置している。色のついたテープを用いて、階段や手すりをわかりやすいように工夫している。		